

和歌山大学基金

Wakayama University FUND



ご寄附のお願い

和歌山大学基金へのご協力をお願い



和歌山大学長
瀧 寛和
TAKI Hirokazu

和歌山大学の教育研究活動に対し、日頃より格別のご支援を賜り心から御礼申し上げます。

和歌山大学は昭和 24 年に教育学部（当時は学芸学部）と経済学部の 2 学部で発足し、平成 7 年 10 月に地元の熱き期待を受けてシステム工学部を、そして平成 20 年 4 月に観光学部を創設し、現在 4 学部体制で教育、研究及び地域・社会貢献等、高等教育機関である大学に課せられた使命を果たすべく全力を尽くしているところでございます。

和歌山大学は、地域と一体となった教員や学生の多くの活動から、地域や社会及び各界から厚かつ深い信頼を得ています。こうした信頼関係をより一層深いものとし、その大きな期待に応え「地域と融合する大学」となるため、全教職員が想いを一つにして邁進しているところであります。

しかしながら、平成 16 年に国立大学が国立大学法人に組織替えされて以降、教育研究の経費である国からの運営費交付金は年々削減されており、大学に課せられた使命をこれまで以上に発揮するには、多くの方々のご支援をお願いせねばならない事態に立ち至っております。そこで、平成 21 年 1 月に観光学部創設記念と教育研究基盤事業の充実のために「和歌山大学基金」を設立した次第でございます。

本学を取り巻く環境は年々厳しさを増していますが、皆様方のご期待に添うよう、一層の努力を重ねてまいりますので、何卒、この趣旨をご理解いただき「和歌山大学基金」に是非ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



和歌山大学後援会長からのメッセージ

昨今、我が国の再生戦略として、地方創生や地域の活性化が叫ばれる中、地方国立大学には、地域の中心的存在としての役割を担い、これからの時代を切り拓く大切な人材を社会へ送り出すという使命を果たすため、一層の機能強化が求められています。

また、大学教育は多様化し、他大学との競争も激しく、グローバル化が加速しています。時代の波に遅れることなく、これらに応えるためには、大学の自主的自律的な改革が必要であり、確固たる目標と不断の努力そして資金面の充実が不可欠であります。

しかし乍ら、国からの国立大学法人への運営費交付金は削減が続き、思い切った改革を進めるにも資金不足という現状があるのです。この現状を打破し、大学の評価と競争力向上実現のために、今後、和歌山大学改革のためのプロジェクト事業を支援する様々な基金事業を進めていく必要があります。平成 27 年度から和歌山大学基金の新たな事業計画が示されており、当事業計画に対して、一人でも多くの方々のご理解とご支援をお願い申し上げる次第でございます。

尚、和歌山大学基金は、グローバル人材育成・教育振興事業、地方創生事業、研究支援事業などに充てられます。

オール和歌山大学応援団が一丸となる「紀雲会」も平成 27 年度 10 月に発足致しました。和歌山大学同窓会、和歌山大学後援会、支援企業、支援財団、個人支援者、学長、学長OB、教職員他の皆様、何卒よろしく願い申し上げます。



和歌山大学後援会長

原 良也

HARA Yoshinari



基金による事業計画 <和歌山大学の改革推進へ>

和歌山大学は、高野・熊野世界文化遺産など豊かな歴史と環境に育まれた和歌山県唯一の国立総合大学として、学術文化の中心としての使命と役割を担い、「地域と融合」し、地域の発展に寄与する学術研究を推進し、地域創生を牽引する人材を育成することとしています。また、第3期の国立大学運営費交付金をめぐる情勢には大変厳しいものがあり、これらの目標を達成するため基金による様々な支援が重要であると考えています。

<<2016～2017年度の重点基金計画>>

和歌山大学は、グローバルに活躍できる人材を育成し、地域社会に有為な学生を輩出します。

□基金内容

○大学活動支援基金

大学の基盤事業を支援するための基金です。

○特定目的支援基金

【和歌山大学グローバル人材育成・教育振興基金事業】

グローバル人材育成(現行支援事業)

(グローバルに活躍できる人材育成への支援を行います。具体的には、TOEIC・TOEFL の受験料補助、外国人留学生・日本人学生・支援企業等による交流事業への支援を行います。)

和歌山 ASEAN プロジェクト(WAP)

WAP は、「和歌山大学から国際協力を！世界にひとつでも多くの笑顔をつくるために」をスローガンに、ASEAN 諸国を中心とした国際協力活動を行っている団体です。現在は主に「TIES」「WAP-Cube」「FUTSAL」「POOL」の4つの企画グループで活動しています。

「TIES」タイで障がいがある子供達にアプローチしています。彼らに車椅子を贈り、子供達が社会参画への第一歩を踏み出せるような交流企画を行っています。

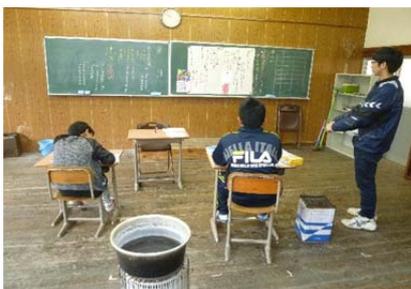
「WAP-Cube」インドネシアのゴミ山でゴミのピックアップで生計を立てている人々の子供達が通う小学校にアプローチしています。菜園を共に作り、栄養に関するセミナーを開くなどの活動をしています。

「FUTSAL」フットサルを通じて国際協力にアプローチしています。2ヶ月に1回ほどのペースでフットサルの大会を開き、収益はタイやインドネシアでの、協力活動の資金とさせて頂いています。

「POOL」WAP メンバーの知識を高め、国際協力により効率的にアプローチしていくために WAP 内部の運営をしています。

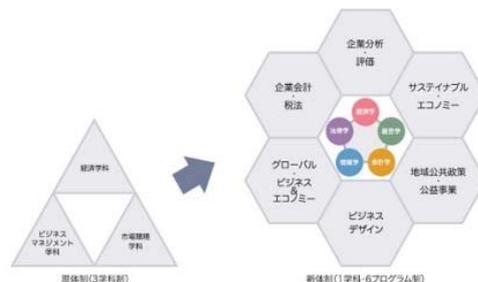


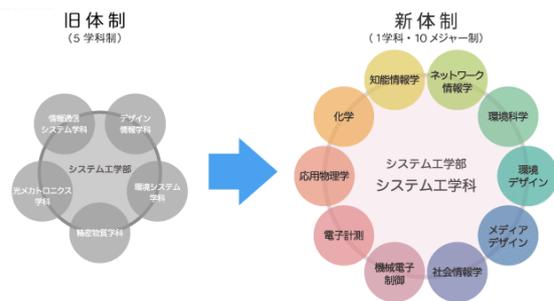
<本学における特色ある教育例>



教育学部は、県内唯一の教員養成学部として地域の学校教育を牽引する人材の育成に責任を負っています。4年間を通じて体系的に教育実習を行い、実践力を重視した授業を展開しています。またホームステイ型のへき地・複式教育実習や教育ボランティアなど、地域と連携して多様な学びの機会を設け、教員としての資質向上に努めています。その結果、全国的にも高い教員就職率を誇っています(平成26年度卒第4位※文科省発表)。平成28年度から教職大学院を開設し、現職教員の専門性を高度化するリカレント教育の機能も強化していきます。

経済学部は、平成28年度より3学科制から1学科6プログラム制に移行し、専門教育を「経済学、経営学、会計学、法律学、情報学」の5つの科目領域に再編します。プログラム毎に学問領域をクロスオーバーした専門的体系的なカリキュラムによって、現代社会の課題解決に必要なより高度な専門知識、実務能力及び行動力を兼ね備えた人材を養成します。4年一貫のメンター制少人数教育や様々なアクティブ・ラーニングを導入しています。国際経済やアグリビジネス等の専門性の高い教育を行う「エキスパート・コース」での特別修学、飛び級制度も実施しています。





システム工学部は、開設 20 年を迎え、従来の 5 学科を統合し、10 の教育・研究領域（メジャー）から成るシステム工学科を設置しました。システム工学科では、2 つのメジャーを専門として学びます。この教育システムにより、複数の技術領域を見通してイノベーションに貢献でき、広範な理工系分野で活躍する自律の高度人材を育成します。さらに、多様なキャリアパスへの挑戦を可能にする教育プログラムを整備しました。また、大学院博士課程では、社会人の学位取得を支援する高度知識技能職育成プログラムを設置しています。

観光学部ではフィールドワークをはじめとする実践型教育プログラムを充実させてきました。地方自治体等との連携による地域インターンシップ (LIP) には延べ 420 名の学生が、豪州・クイーンズランドと英国・オックスフォード等で実施している海外研修 (GIP) には 142 名の学生が参加しています。地域課題や観光現象を現場で学ぶことや、そこで出会った人びととの交流は、学生にとって貴重な経験であり、自らを主体的な学びと実践に奮起させる機会となっています。

平成 28 年度には英語で観光の専門科目を学ぶグローバルプログラムもスタートします。



協働教育センター（通称クリエ）の「クリエプロジェクト」は、やる気のある学生の活動を支援する全国に先駆けた PBL（課題解決型学習）の教育制度です。学生が自ら計画を立案、実行する過程の指導を通じて、自主性や創造性を備えた人材を育成します。その学びのテーマは多岐に渡り、ソーラーカーやロボットの開発、映像作品やゲームの制作等に全国レベルの実績があります。また、地域観光振興や宇宙教育等、本学ならではの取り組みがあります。毎年のように新しい活動が生まれており、脳情報処理のような未来の技術にも挑戦しています。



ソーラバイク PJ



FIA ALTERNATIVE ENERGIES CUP ソーラーカーレース鈴鹿 2016 でクラス優勝（総合 2 位）となりました!! ご寄附いただきました皆さま、ありがとうございました!!

ソーラーカー PJ

【学生諸活動支援基金事業】

（学生の教育・研究活動や、クラブ・サークル等の課外活動など、学生の様々な活動において優秀な実績・成果がある個人・団体への支援を行います。）

【研究支援基金事業】

（本学の研究活動の中から、先進的な研究を行っている研究者個人・研究グループに対する支援を行います。）

< 本学における先進的な研究例 >

教育学部は、文部科学省の「総合的な教師力向上のための調査研究事業」のうち、「教育課題に対応するための教員養成カリキュラム開発」に対応した「教育学研究科・教科教育専攻による教職大学院設置を視野に入れた小学校をフィールドとする教科の枠を超えた理数教育の実践的授業カリキュラムの開発」を行っています。特に公立小学校をフィールドとした共同研究、理科・算数それぞれの教科横断的な教材開発と大学院院生による授業実践研究を行った。その研究成果は大学院改革に伴う実践的な科目づくりの基礎となっています。



経済学部：「地方都市中心の市街地・都市政策に関する研究」

(主著の足立基浩『シャッター通り再生計画』ミネルヴァ書房は2011年11月18日「不動産協会賞」受賞)

「地方都市中心の市街地・都市政策に関する研究」では、地方都市をいくつかの指標で分類し、それぞれの地方の経済事情・地理的要因に合うような再生策が必要であることを示した。とくに、都市政策におけるセンチメンタル価値という新しい概念を紹介し、計量分析によりセンチメンタル価値を数量化して、地域への愛着こそが再生への原動力であることを示した。著者は主著の出版後に、内閣府や国土交通省などの審議委員を歴任し、中心市街地活性化の法整備にも貢献した。また、この成果をもとに、各種のセミナーでの講演や、記事執筆などを通じて、多くの地方都市が共通に抱える問題である、シャッター通りの再生に向けて貢献している。

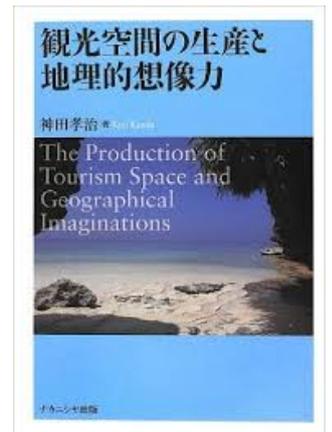


システム工学部・システム工学研究科の研究分野は広範な理工系分野にわたっています。農業用アシストスーツの開発やセンサーネットワーク技術を応用した防災関連研究に代表される地域の抱える課題解決に向けた研究や、木質ナノカーボンの開発などの和歌山の特徴を生かした新しい産業の種となる技術開発などを行うとともに、高齢難聴者コミュニケーション支援に関わる研究、サイバー義体者のオリンピック「サイバスロン」への参加をめざしたパーソナルモビリティビークルの開発など特色ある研究を進めています。

観光学部：神田孝治『観光空間の生産と地理的想像力』ナカニシヤ出版、2012

(2014年7月6日 観光学術学会・著作賞受賞)

観光学部では、日本における観光学の拠点として、高度な観光研究を行っている。ここで取り上げた研究は、文化や空間に注目した理論的な観光研究であり、これは1990年代以降の人文社会科学における新しい議論を取り入れた先進的なものである。また同時に、南紀白浜温泉や新和歌浦、そして熊野といった、和歌山県内の事例を検討しており、和歌山をベースにした観光学の進展を象徴する研究でもある。同著は、理論的な観光学の推進を図るために、観光学部教員が主導して2012年に設立した観光学術学会から、著作賞も授与されている。



【同窓会等活動支援基金事業】

(同窓会の諸活動に対する支援を行います。なお、当該事業において特定学部の同窓会への支援を目的にご寄附いただくこともできます。)

＜考えられる支援事業例＞

- ・ 会員名簿等のデータベース化支援
- ・ ホームカミングデーへの支援
- ・ 生涯メールアドレス付与事業

【地域創生基金事業】

(人口減少・高齢化社会という地域が掲げる課題・問題に対し、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生するために必要な支援を行います。)

＜考えられる支援事業例＞

- ・ COC 事業への支援



○修学支援事業基金(平成28年～)

【授業料等減免事業】

授業料、入学金又は寄宿料の全部又は一部の免除その他学生等の経済的負担の軽減を図ります。

【奨学金事業】

学資を貸与または給付することで経済的援助を行います。

【留学支援事業】

教育研究上の必要があると認めた学生等による海外への留学に係る費用を負担します。

【TA・RA事業】

学生の資質を向上させることを主たる目的として、学生を教育研究に係る業務に雇用するために必要な経費を負担します。

ご寄附の方法

□基金へのご寄附について

和歌山大学基金の趣旨をご理解いただき、より多くの方々のご寄附をお願いします。
皆様からのご寄附は、厳正な管理のもと、和歌山大学基金として有意義に使わせていただきます。
金額については、1口5千円を目安とさせていただきますが、それより少額でも結構です。
お手続きは下記のいずれかの方法でお申し込みください。

□本学所定の振込用紙をお持ちの方

三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、紀陽銀行の窓口をご利用の場合は、振込手数料は不要です。その他の金融機関からのお振込みの場合は別途振込手数料が必要となりますので、あらかじめご了承ください。

□本学所定の振込用紙をお持ちでない方

○クレジットカードからの払込み

クレジットカードによる寄附のお申込



1. 次のURLよりお申し込みください。 <http://www.wakayama-u.ac.jp/fund/application.html>
氏名、住所、ご寄附の方法など、必要事項を入力いただくことで、クレジットカードからのご寄附の払込みをしていただくことができます。
2. 申込時間
・午前6時00分から翌日午前2時00分 *ただし、第3火曜日はメンテナンスのため、午前9時00分から翌日午前2時00分
3. 次のクレジットカードをご利用いただけます。
・VISA、Master、JCB、AMEX、Diners
◇注意事項
※クレジットカードのご寄附は3千円から承っております。
※クレジットカードはご本人以外ではご利用できません。
※お支払いの回数は1回払いのみとなります。
※寄附金は、通常のカード利用と同様にご指定の口座より振替させていただきます。
※振替日は各カード会社より送付されるご利用明細でご確認ください。
※領収書は、各カード会社から大学への入金が確定された後、送付させていただきます。そのため、御礼状及び「寄附金受入証明」の発行までに、お申込み受付から約2~3ヶ月程度お時間がかかりますので、あらかじめご了承ください。
※ご利用のクレジットカードにより異なりますが、引き落としの時期によっては、「寄附金受入証明」に記載する発行日および送付が翌年となる恐れがあります。お申込み年内での寄附金控除をご希望の場合は、以下の金融機関からのお振込みをご利用ください。

○申し込みフォームによる書類の請求



書類請求フォーム <https://www.wakayama-u.ac.jp/fund/mailform.php>

こちらの申し込みフォームに必要事項をご記入ください。和歌山大学基金資料、振込用紙一式を折り返しお送りいたします。



- 書類が到着しましたらお振込みをお願い申し上げます。
- 寄附金のご入金を確認次第、「寄附金受入証明」をお送りします。
「寄附金受入証明」は免税措置を受けるために確定申告時に必要となります。

○基金口座への直接お振込み

この基金の趣旨にご賛同頂き、特に「寄附金受入証明」が必要でない場合は、直接次の和歌山大学基金口座にお振込みしていただくこともできます。

	銀行名	口座番号
取扱銀行	三井住友銀行和歌山支店	普通 7022033
	三菱東京 UFJ 銀行和歌山支店	普通 0006436
	紀陽銀行紀の川支店	普通 784917

※ただし、この方法によるお振込みは、本人の確認ができない可能性がありますので、後に「寄附金受入証明」をお求めになっても発行することができなくなりますので、ご了承ください。

○ご不明な点につきましては、和歌山大学基金室までご連絡をお願いします。

和歌山大学基金室

所在地	〒640-8510 和歌山市栄谷 930 番地
電話	073-457-7089
ファックス	073-457-7000
E-mail	kikin@center.wakayama-u.ac.jp

免税等の取り扱いについて

和歌山大学に対する寄附については、所得税法、法人税法による税制上の優遇措置が受けられます。

○優遇措置(寄附金控除)の内容について

- 個人が寄附をされる場合……寄附金額から2千円を差し引いた額が、所得控除を受けられます。
※ただし、寄附金の額が総所得金額の40%を上回る場合は、40%が上限額となります。
- 法人が寄附をされる場合……寄附金の全額を損金算入することができます。

○優遇措置を受ける手続きについて

確定申告期間に、和歌山大学が発行した「寄附金受入証明」を添えて税務署に申告してください。なお、「寄附金受入証明」は、寄附金の入金を確認次第お送りいたします。

※ご寄附人が個人の場合は、所得税法第78条第2項第2号により寄附金控除の対象となります。

※ご寄附人が法人の場合は、法人税法第37条第3項第2号により損金算入となります。

○遺贈によるご寄附をお考えの方に

卒業生、退職職員、教職員、一般篤志家等で資産を遺贈として寄附をお考えの方は、当大学の基金室又は信託銀行等にご相談ください。(なお、税務上のご相談は所轄税務署でのご相談ください。)

○修学支援事業基金への個人寄附に対する優遇措置について(平成28年～)

平成28年度税制改正において、租税特別措置法(昭和32年法律第26号)が改正されたことに伴い、個人が、一定の要件を満たした国立大学法人へ寄附金(修学支援事業に充てられるものに限る。)を支出した場合の、税額控除の仕組みが創設されました。確定申告には、「寄附金受入証明」及び「税額控除に係る証明書」の写しが必要です。詳しくは、本学基金ホームページ(<http://www.wakayama-u.ac.jp/fund/>)をご確認ください。

